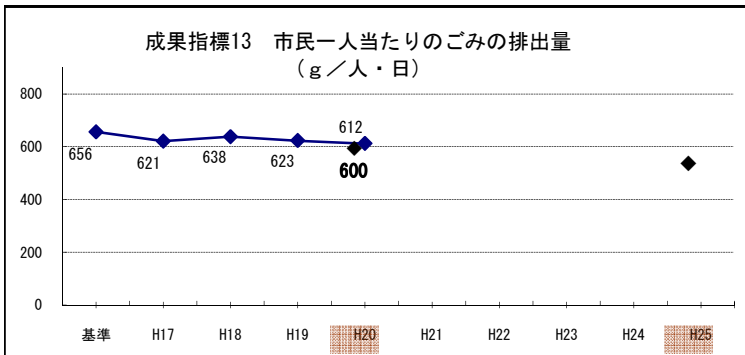


|      |                           |
|------|---------------------------|
| 柱    | 3 廃棄物・リサイクル               |
| 分野   | I リデュース・リユース              |
| ビジョン | 買う人・売る人・作る人 いつも心に“もったいない” |

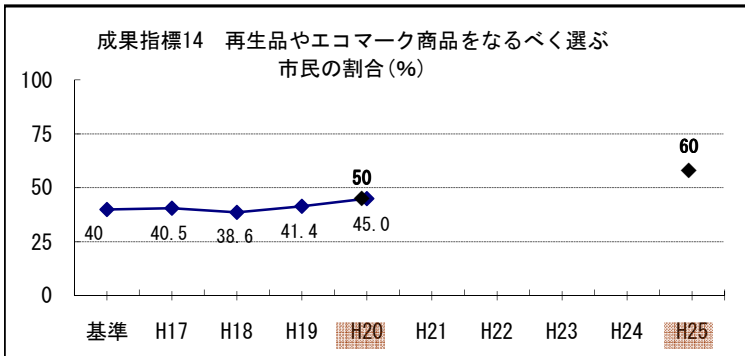


**主な事業**  
 ごみ指定袋制、レジ袋の有料化  
 集積場所での資源回収  
 EM処理剤の無料配布  
 広報等による啓発

計画通りに成果が上がっているか

目標達成  
 順調  
 順調でない

**成果指標の分析**  
 「市民一人当たりのごみ排出量」は、平成16年度に資源用袋の枚数増(30枚→50枚)により654gから621gまで減少したが、18年度は転居増等に伴う引越しごみの一時的増加等により638gへ増加し、19年度は引越しごみの減少により623gへ減少、20年度も612gへ減少したが、成果指標の達成は順調ではない。

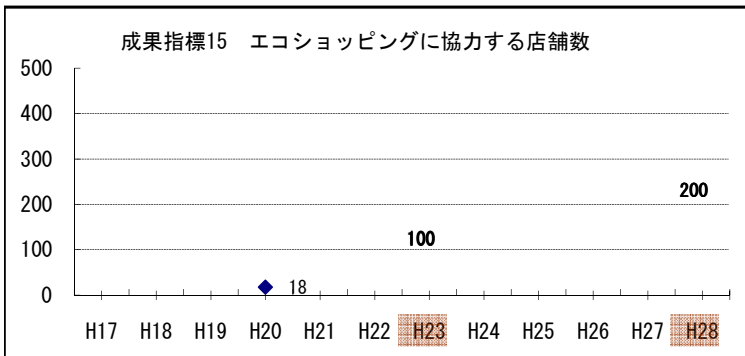


**主な事業**  
 リサイクルフェア  
 資源集団回収  
 分別収集事業  
 広報等による啓発

計画通りに成果が上がっているか

目標達成  
 順調  
 順調でない

**成果指標の分析**  
 「再生品やエコマーク商品をなるべく選ぶ人の割合」は、19年度まで基準値(統計誤差の範囲内)を上下していたが、20年度は3.6%上昇しめざそう値は達成していないものの順調である。これは、レジ袋の有料化などの影響で買い物において環境貢献活動に対する認識が深まってきたためと思われる。



**主な事業**  
 レジ袋有料化

計画通りに成果が上がっているか

目標達成  
 順調  
 順調でない

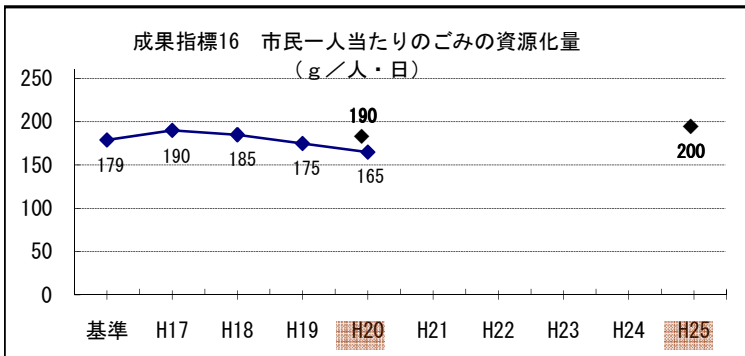
**成果指標の分析**  
 今回、指標の暫定的な定義として、レジ袋有料化参加協力店舗数とした。20年度は目標値をかなり下回っているが、今後、レジ袋有料化に限定せず協力店舗の拡大を図る。

成果が向上する余地(可能性)は?  大  中  小

**成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針**

- 啓発冊子(ごみ収集カレンダー・ごみと資源の出し方)や広報等を通じ、3R活動の促進や適正排出等と呼びかける。
- 買い物における環境貢献活動を促進するためにも、レジ袋有料化やエコショッピングに協力する店舗の拡大と普及啓発を推進する。

|      |                         |
|------|-------------------------|
| 柱    | 3 廃棄物・リサイクル             |
| 分野   | J リサイクル・適正処理            |
| ビジョン | 子どもの未来を考えて、自然にやさしい処理・処分 |

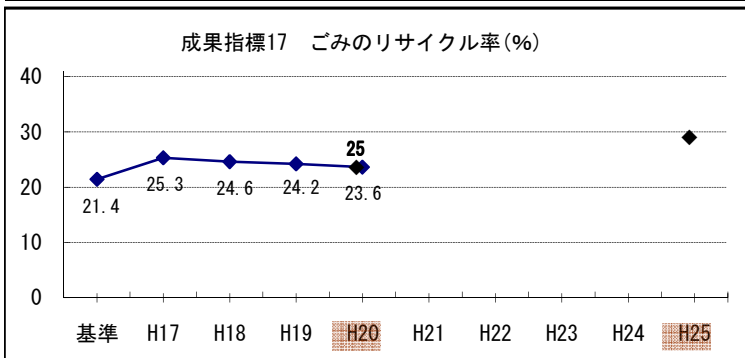


**主な事業**  
 リサイクル情報事業  
 フリーマーケットの開催  
 リサイクルフェア開催

**計画通りに成果が上がっているか**

目標達成  
 順調  
 順調でない

**成果指標の分析**  
 「市民一人当たりのごみの資源化量」は、17年度をピークとして、以降は減少に転じ、20年度は前年度に比べ10g減少した。これは主に紙類が約302tの減となったため、主な理由として、自主回収ルート(民間古紙回収場の開設・新聞の専売店回収等)への移行、不況の影響による折込広告や段ボール等の減少が考えられ、20年度のめざそう値は達成できなかったため、順調でない。

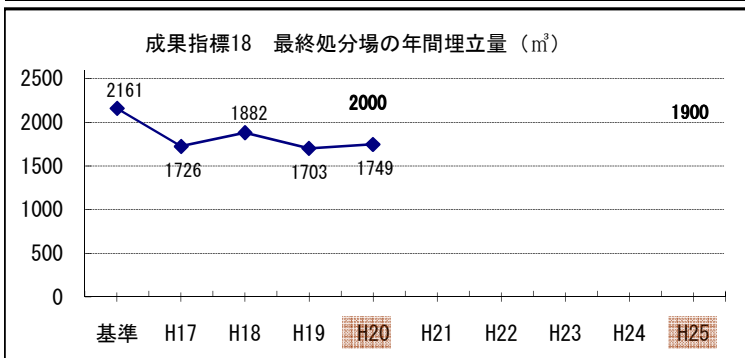


**主な事業**  
 リサイクル情報事業  
 フリーマーケットの開催  
 リサイクルフェア開催

**計画通りに成果が上がっているか**

目標達成  
 順調  
 順調でない

**成果指標の分析**  
 「ごみのリサイクル率」は、紙類の自主ルート(新聞専売店回収、民間回収場所)移行や不況の影響によると思われる折込広告・段ボール等の減により、分別収集・集団回収での回収量が約336tの減となった。家庭系ごみ量は前年に比べて減少したものの資源回収量全体の減少幅が大きかったため、20年度は前年を下回り順調でない。



**主な事業**  
 清掃工場・最終処分場の適切な維持管理  
 広域ごみ処理場の整備推進

**計画通りに成果が上がっているか**

目標達成  
 順調  
 順調でない

**成果指標の分析**  
 最終処分場の年間埋立量は、コンクリート・陶磁器類等の搬入量制限や清掃センター以外でのリサイクル等処理を実施し、17年度には1,726.1m³まで減少したが、18年度は1,882m³に増加し、転居増等に伴う引越しごみの一時的増加によると思われる、19年度は、引越しごみの減少に伴い1,703m³に減少、20年度は、1,749.4m³と微増となったが、成果指標の達成は順調である。

成果が向上する余地(可能性)は?  大  中  小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

- 啓発冊子(ごみ収集カレンダー・ごみと資源の出し方)や広報等を通じ、3R活動の促進や適正排出等と呼びかける。
- リユースの推進策として、リサイクル情報の見直しと新たな情報提供の場の構築を推進する。
- 一般廃棄物処理施設整備基金を活用し、清掃工場の延命化を図る大規模修繕を実施し、22年、県公社最終処分場竣工により延命化のため、持込みの協議を推進する。